

概念フレームワーク・プロジェクトの概略

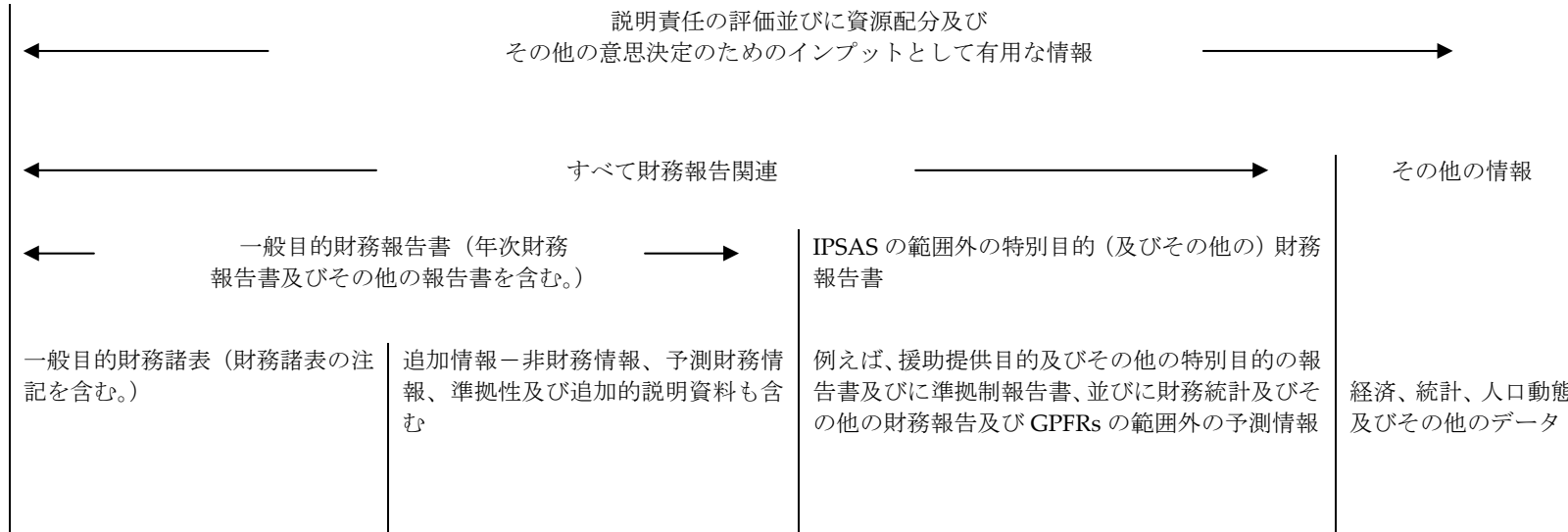
- 長期間にわたるプロジェクト：2007年プロジェクト開始、2013年終了予定
- 2010年以降のIPSASB戦略計画では最優先プロジェクトとの位置付け
- 各国の会計基準設定主体との協力（小委員会→基準設定者諮問パネル）
- IASB-FASBの概念フレームワークプロジェクトとの関係

1. IPSASB の概念フレームワーク・プロジェクトと IASB-FASB の概念フレームワーク・プロジェクトの対比表

IPSASB		IASB-FASB	
第1グループ CP(2008/9) ED(2010 年末予定)	財務報告の目的	財務報告の目的	フェーズ A
	GPFR に含まれる情報の質的特徴	意思決定に有用な財務報告情報の質的特徴と制約	DP(2006/7) ED(2008/5) FINAL(2010/7)
	財務報告の範囲	財務報告の境界	フェーズ E
	報告主体	報告主体	フェーズ D DP (2008/5) ED (2010/3)
第2グループ CP(2010 年末予定) ED(2012 年初予定)	財務諸表の要素の定義と認識	要素の定義及び認識と認識の中止	フェーズ B
第3グループ CP(2010 年末予定) ED(2012 年初予定)	一般財務諸表で認識される要素について有効に採用すべき測定基礎の検討	測定	フェーズ C
第4グループ CP(2011 年後半予定) ED(2012 年前半予定)	表示と開示	表示と開示	フェーズ E
		概念フレームワークの目的と権威	フェーズ F
		非営利事業体への適用	フェーズ G
		その他の問題	フェーズ H

略号 CP：コンサルテーション・ペーパー、DP：討議資料、ED：公開草案

2. 財務報告の範囲

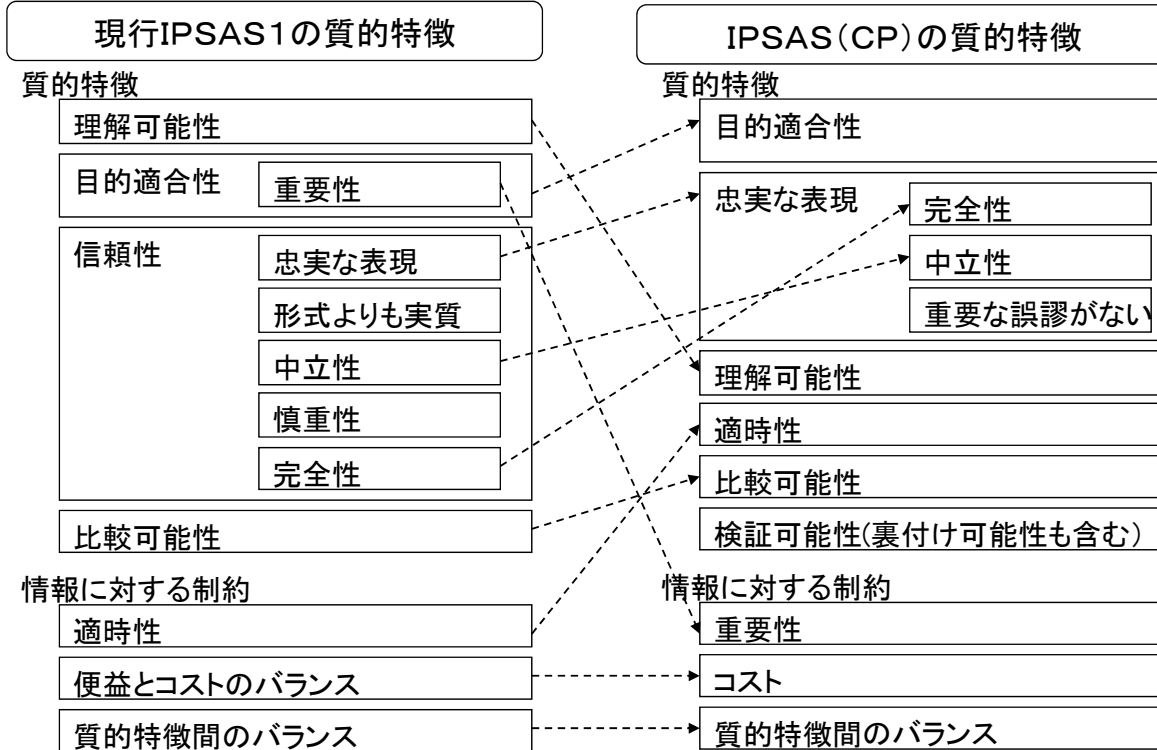


出所： IPSASB概念フレームワーク「公的部門の主体による一般目的財務報告の概念フレームワーク：財務報告の範囲」

表 1：利用者の情報ニーズ

3. 財務報告の質的特徴

現行IPSAS1の質的特徴と、IPSAS(CP)の質的特徴の比較



3. 財務報告の質的特徴（続き）

IASB(ED)の質的特徴と、IPSAS(CP)の質的特徴の比較

IASB(ED)の質的特徴	IPSAS(CP)の質的特徴
<p>基本的な質的特徴</p> <p>目的適合性</p> <p>忠実な表現</p> <ul style="list-style-type: none">完全性中立性重要な誤謬がない	<p>質的特徴</p> <p>目的適合性</p> <p>忠実な表現</p> <ul style="list-style-type: none">完全性中立性重要な誤謬がない
<p>補強的な質的特徴</p> <p>比較可能性</p> <p>検証可能性</p> <p>適時性</p> <p>理解可能性</p>	<p>理解可能性</p> <p>適時性</p> <p>比較可能性</p> <p>検証可能性(裏付け可能性も含む)</p>
<p>情報に対する制約</p> <p>重要性</p> <p>コスト</p>	<p>情報に対する制約</p> <p>重要性</p> <p>コスト</p> <p>質的特徴間のバランス</p>

4. 測定＝喪失価値モデル

Deprival Value (喪失価値) Model 概略

